

# 木材在庫、半数以上が7月まで持たず

## ネットイーグルのウッドショック電話調査

### 稼働率は64%が変わらず

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）が全国のプレカット工場を対象に5月17～28日に実施したウッドショック緊急電話調査で、回答のあった202社のうち117社（57%）が「7月までに在庫が不足する」と回答した。稼働率は「変わらない」が64%と最も多かったが、低下が18%ある一方、上昇も13%あり、会社によっては「つきがあった」。今後の受注見通しは「予想できない」が41%を占めたが、「今までどおり」が30%、「増加する」も7%あった。

ウッドショックの影響では、「既に不足」16%、響については「大きい」55%、「小さい」24%、「受けていない」2%。

「現在の在庫量で木材がいつまで持つか」

「5月」5%、「6月」22%、「7月」14%で、7月までが過半を占めた。

今後の在庫確保（複数回答）については、

「少しは入ってくる」35%、「代替品で対応」33%、「全く入ってこない」12%。

「ウッドショックがいつまで続くか」では、「見えない」が56%と過半を占めたが、「年内（12月）」が37%あり、少なくとも年内は続くとの見方が多かった。

「木材がどれだけ値上がりしているか」は、「2倍」36%、「5割以上」58%。

見積もり案件は、「変わらず」、49%「増えて

いる」43%で、「減っている」は7%にとどまった。見積もりの有効期間は、「1カ月」54%、「時価」12%、「2週間」と「状況による」が各7%、「1週間」4%。

新規受注は「断っている」が58%に上る一方、「受けている」28%、「条件付きで受けている」が10%だった。

稼働率は、低下のうち「1割減」8%、「2割減」7%、「3割減」と「5割減」が各1%、上昇のうち「1割増」8%、「2割増」3%、「4割増」と「5割増」が各1%。

祖父江社長は「新規の顧客は断る工場が多いが、固定客は請けているため、受注は大きく落ちていないよう

だ。ただ、木材不足で納期は遅延しており、結果として稼働率は低下している」と説明する。